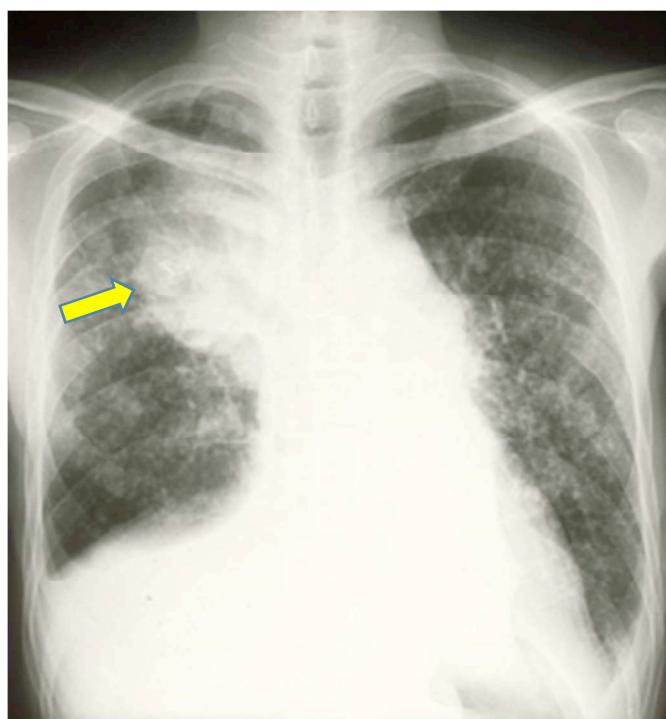


肺がんの胸部レントゲン写真

1. 進行肺がん



進行肺がん左肺門部腫瘍陰影。腫瘍は右上葉に発生した腺がんで大きさ 6 cm、両側縦隔リバーパ節転移があり N3。病期 IIIB。手術適応はなく、放射線と化学療法が適応です。

2. 進行肺がん



右肺の進行がん。脳転移あり。病期 IV。手術適応なく、分子標的治療（イレッサ）を行った。投与後 2 週間で効果出現。右肺の腫瘍陰影はほぼ消失。

3. 早期肺がん



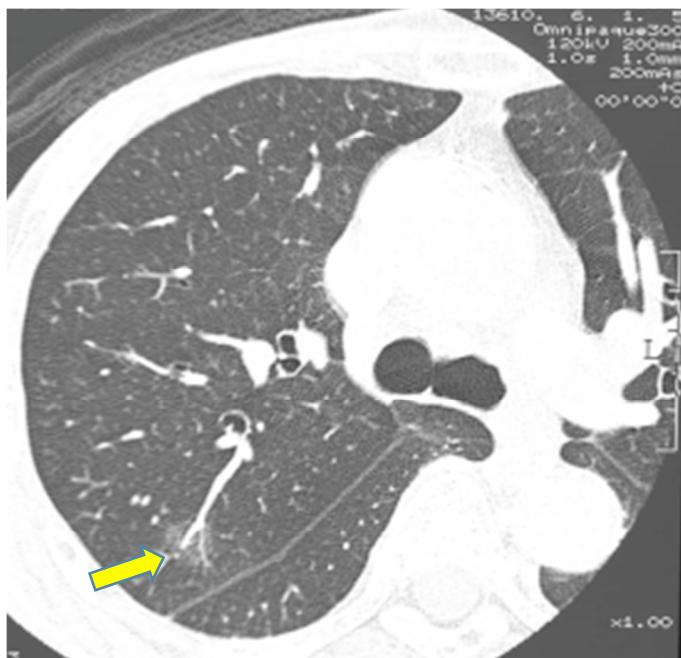
胸部レントゲン写真は全く異常がありません。異常が見つかるのは 2cm 以上の大さで、充実性で結節状の陰影ですと見つけることができますが、2cm 以下ですと見つけるのは困難です。また GGO は見つかりません。

4. 早期肺がん GGO (Ground glass opacity, スリガラス様陰影)



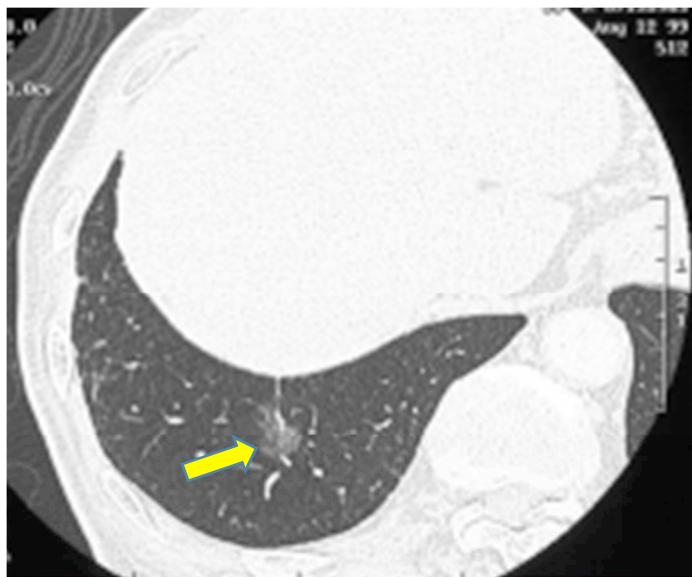
しかし、CT では大きさに関係なく小さくても発見できます。右下葉の 1cm ほどの早期肺がん (GGO, 矢印) です。この大きさでは通常経過観察されるのが一般的です。肺がんと確定診断されれば部分切除で完治します。

5. 早期肺がん GGO



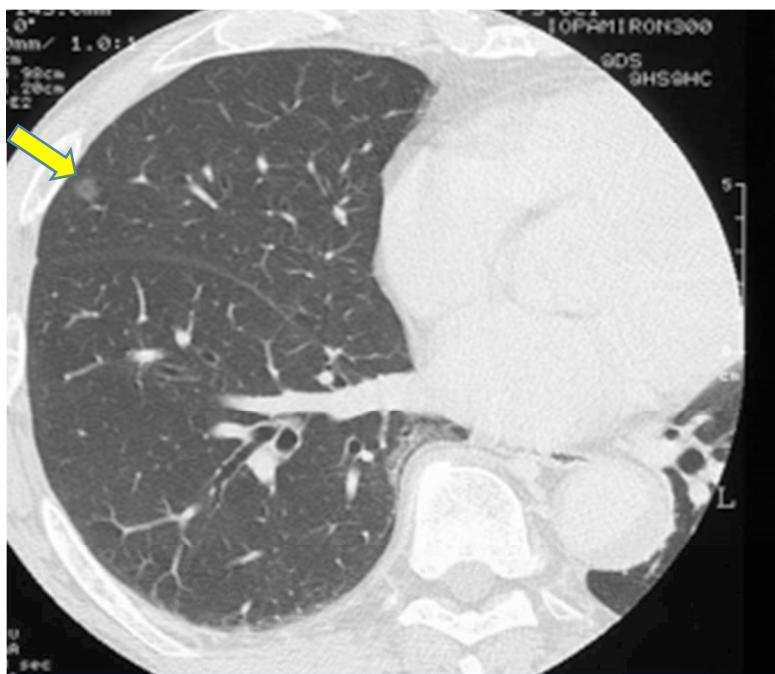
右上葉の血管周囲の 1.5cm の早期肺がん (GGO, 矢印)。胸部レントゲンでは異常なし。この大きさでは経過観察されるのが一般的ですが、肺がんと確定診断されれば部分切除で治療されます。

6. 早期肺がん GGO



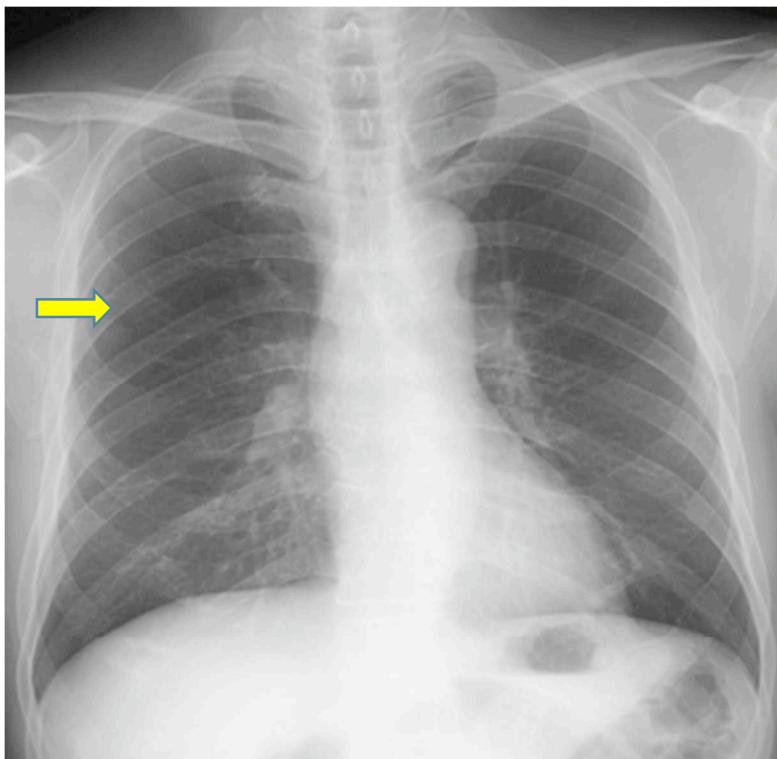
右上葉の血管周囲の 1.8cm の早期肺がん (GGO, 矢印)。胸部レントゲンは異常なし。この大きさでは経過観察されるのが一般的ですが、肺がんと確定診断されれば部分切除で完治します。

7. 早期肺がん GGO

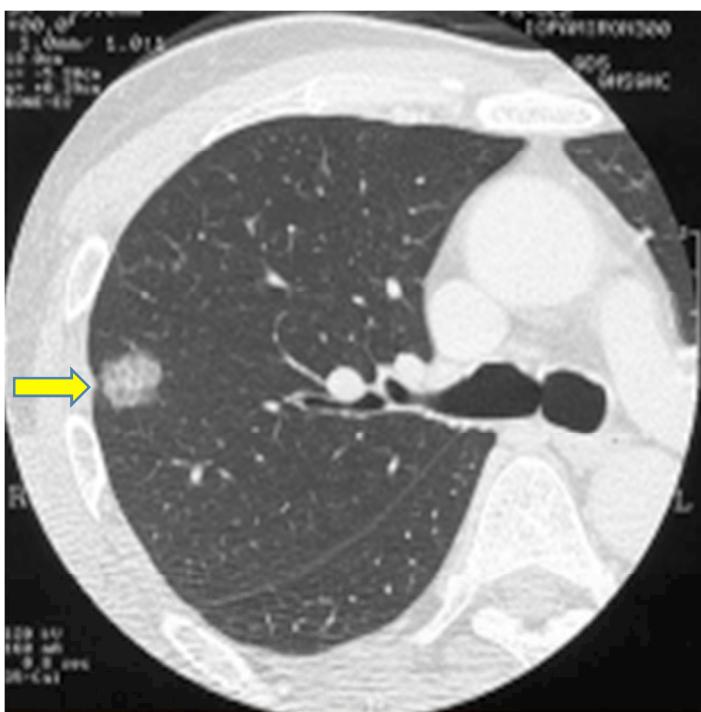


CT では右中葉に矢印のように 5mm 大の GGO (腺がん) がはっきりと映る。CT ではこの様な微小な影も映ります。この大きさでは経過観察されるのが一般的ですが、肺がんと確定診断されれば部分切除で完治します。

8. 早期肺がん（結節陰影）

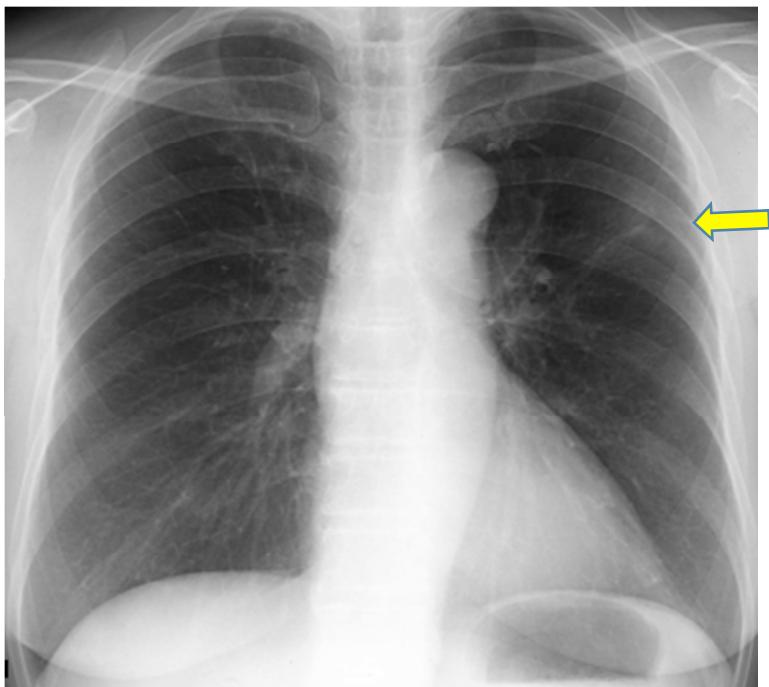


右上葉の肺がん（腺がん）。矢印のところをよく見ると、かすかに肺がん陰影が映っています。大きさは 2cm 程ですが分かりにくく、正常として扱われてしまいやすいです。

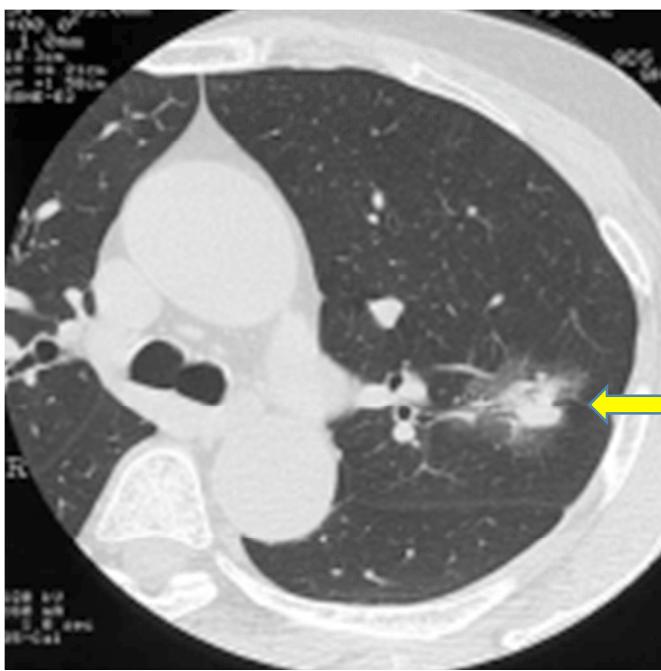


しかし、CT で見ると矢印のところにはっきりとした陰影が見られます。CT の優れた技術です。この大きさですと、手術で完全に治すことができます。

9. 早期肺がん、(結節陰影)

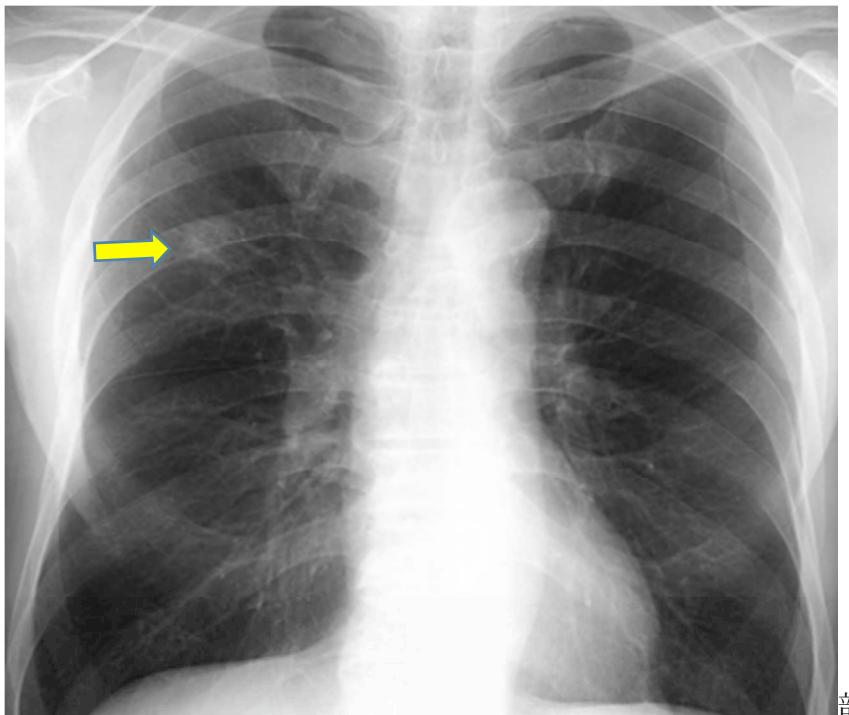


胸部レントゲン写真では矢印のところに左上肺野にかすかに異常陰影が見られます。うつかりすると見落とされる危険性もあります。



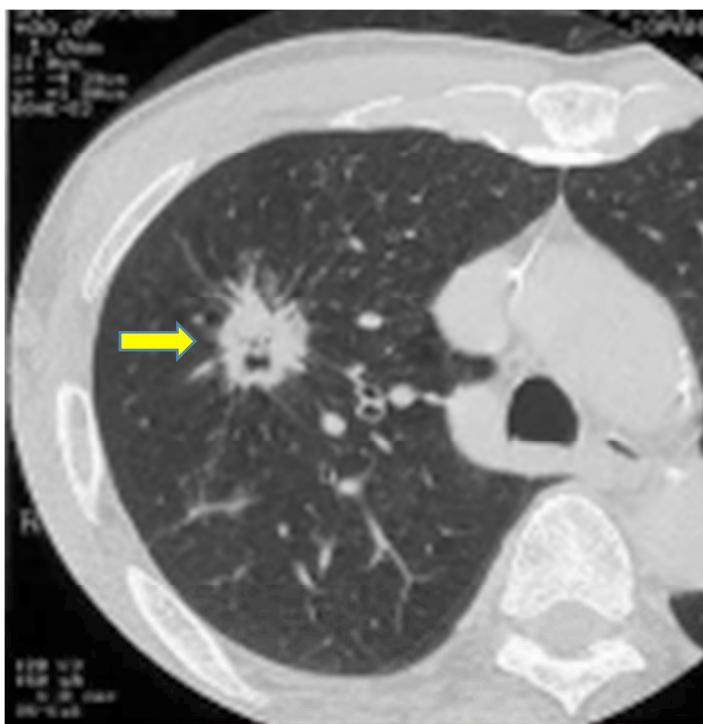
しかし、CTでは矢印のようにはっきりと肺がん陰影が見られます。この肺がん陰影は2つの成分で構成されています。真ん中の白い部分は3cm程で充実性で浸潤がんの性質を示し、周囲に5x7cmのGGOを伴っています。この肺がんは浸潤がんとして扱われ、手術による左上葉切除とリンパ節郭清が適応になります。

10. 早期肺がん、(結節陰影)



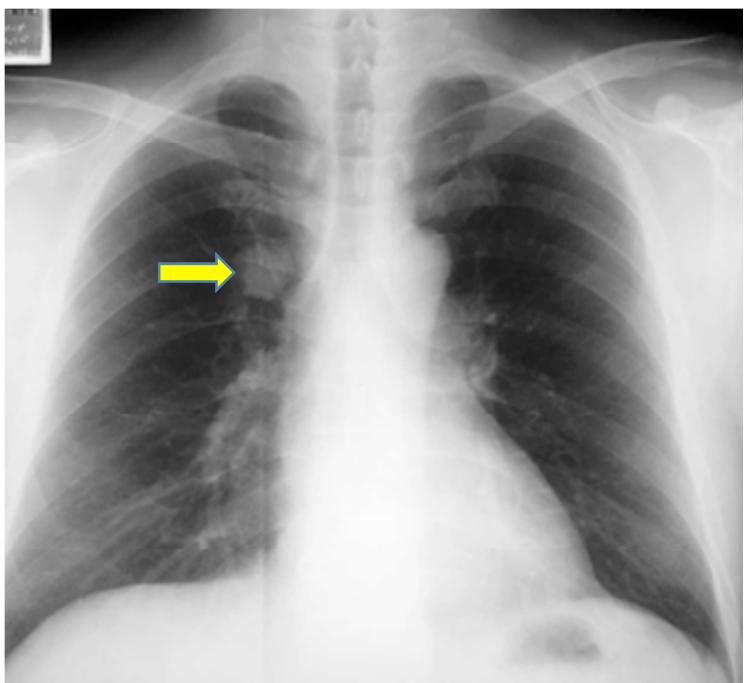
部

胸部レントゲン写真では矢印のように右上肺野に異常陰影が見られます。 $2^{\wedge}3\text{cm}$ の Coin 陰影です。このように肺の奥の方にできる肺がんを末梢型肺がんと言って、腺がんが多いです。この大きさですと手術によって 85-90% 治ります。

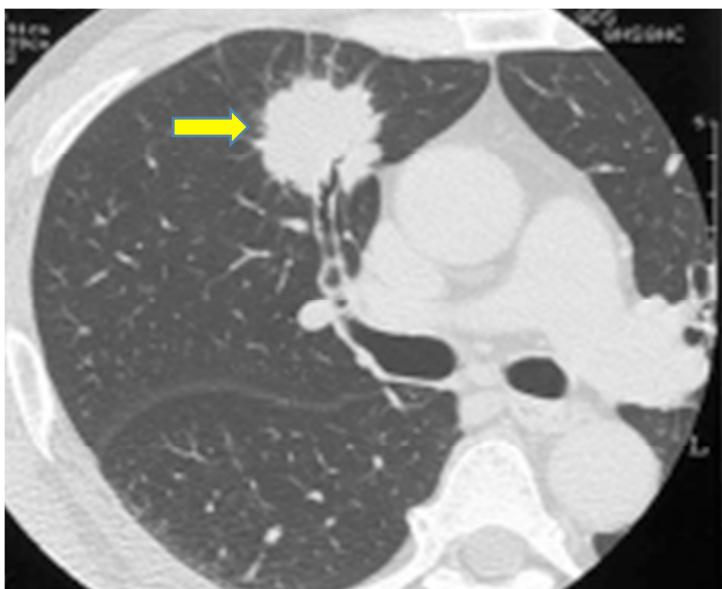


CT では右上葉の S3 という区域に 3cm の肺がん陰影（矢印）が見られます。この陰影の周囲がギザギザしており、腺がんの特徴です。右上葉切除とリンパ節郭清が適応されます。

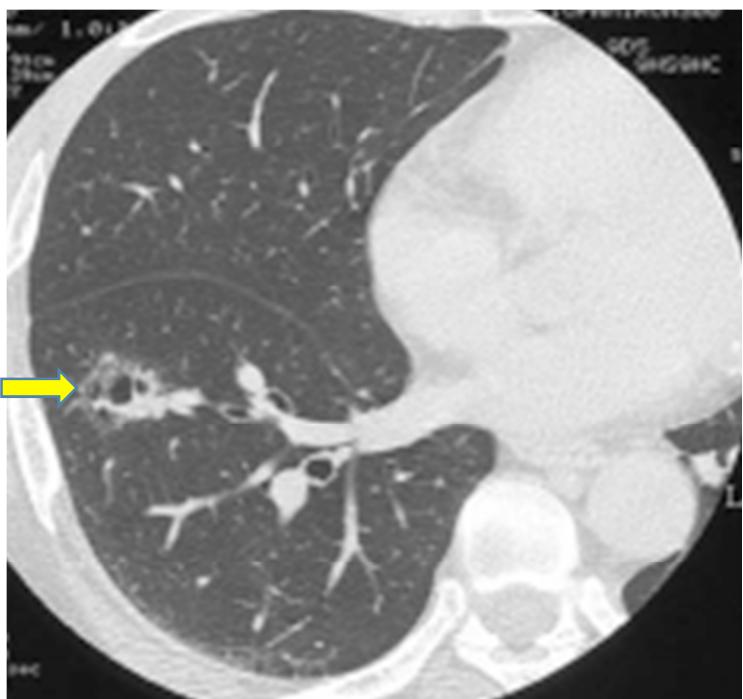
11. 肺がん、(結節陰影)



胸部レントゲン写真では矢印のように右上肺野の縦隔側（心臓に近いところ）に矢印のところに 3cm 位の丸い結節状の陰影が見られます。

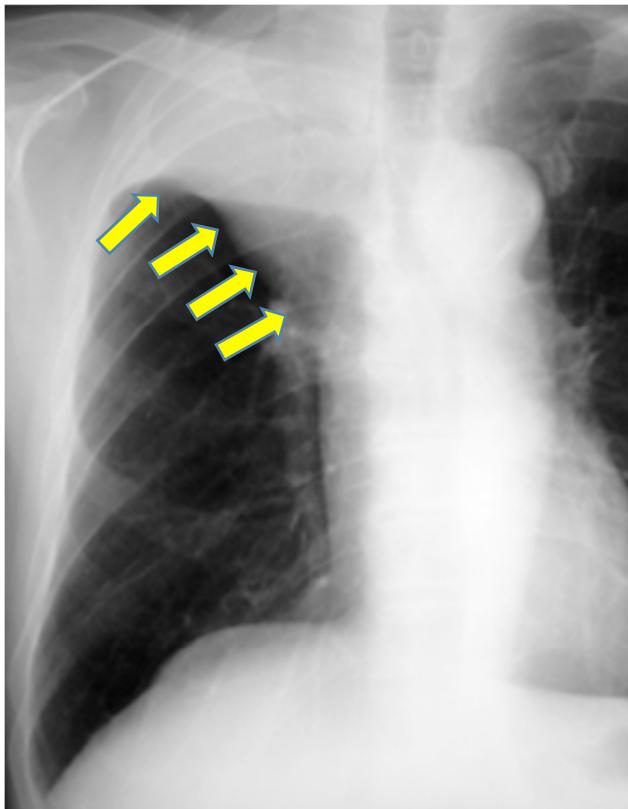


CT では上葉支 B3 の先にギザギザ (spicule)、凸凹 (notching)、胸膜引込 (indentation) の所見を伴った 3-4cm 大の肺がん陰影が見られます。これらの所見はどれも腺がんの特徴です。

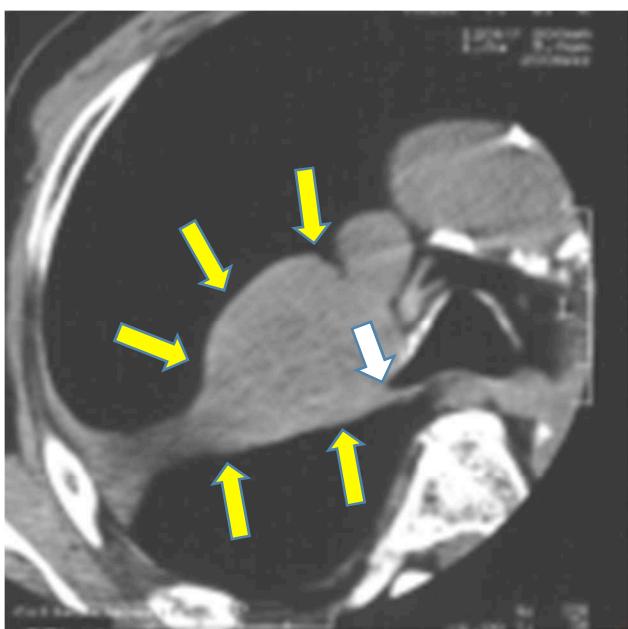


この患者さんには CT で右下葉にもう一つの異常陰影（矢印）が見つかりました。胸部レントゲン写真では陰影は見られませんでした。このような時上葉の肺がんの転移の可能性と、同時に発生した肺がんの可能性がありますのでさらに詳しい確定診断が必要になります。

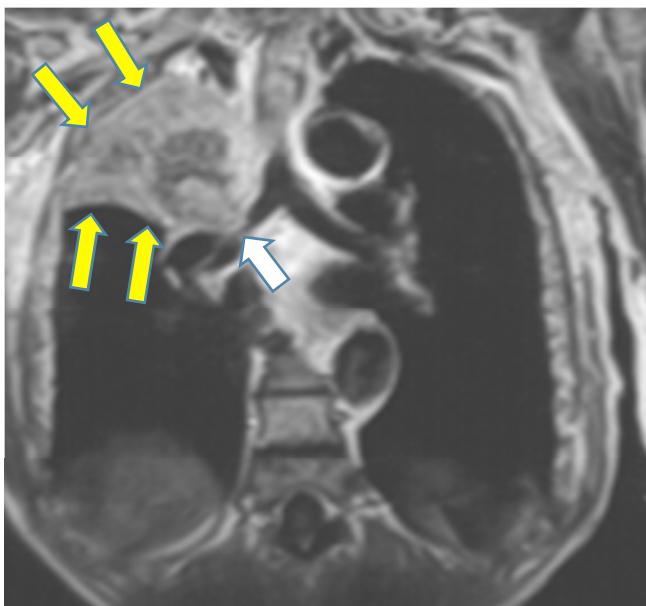
12. 肺がん、無気肺



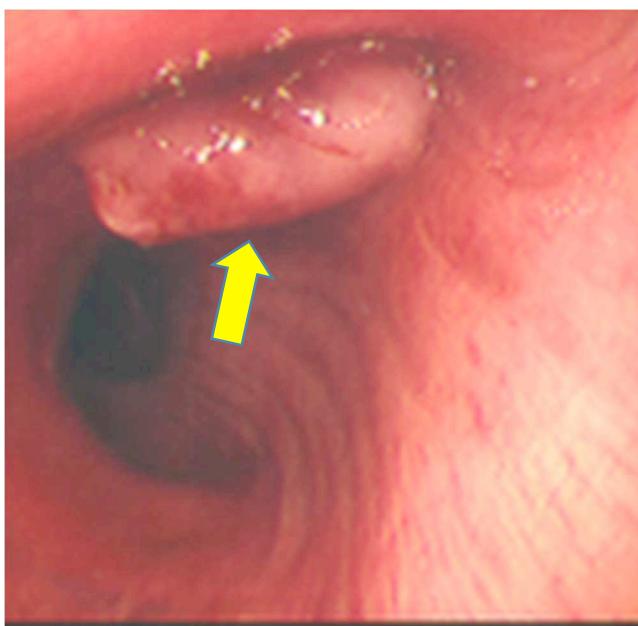
右上葉に異常な影が見られます。無気肺（空気のない状態、矢印）陰影といいますが、上葉支の入口部が何らかの原因で閉塞しますとこのような陰影が生じます。この患者さんは肺がんが原因でした。



CTでは右の上葉支入口部（白色矢印）が閉塞しております。黄色矢印は無気肺。



異なった角度で CT を見ますと白色矢印のところが閉塞部位、黄色矢印が右上葉支の完全無気肺です。



内視鏡で見ますと右上葉支入口部は腫瘍（矢印）によって完全に塞がっており、無気肺はこれによって生じていました。生検の結果、扁平上皮がんでしたが、このように太い気管支に発生する肺がんを中心型肺がんといいますが、組織型は扁平上皮がんが多いです。タバコが原因で発生するといわれます。